

『都市型がん医療連携を担う人材の実践的教育』

東京女子医科大学・杏林大学・帝京大学・駒澤大学



ニュースレター 平成27年3号

各大学コーディネーターからのあいさつ～第2回～

帝京大学緩和医療学講座より



帝京大学医学部
緩和医療学講座
教授・診療科長

有賀 悦子

東京都では、がん患者はその生活背景や就労などの個別性が高い中、とりまく社会では高齢化が急速に進んでいます。このような都市特性の中で、臨床教育を専門とする施設で連携を取り、多様でかつ急速な変化に対応できるがん医療の人材の育成に取り組んでいます。治療を目指した分野に並行し、患者のWell-beingを支える医療分野である緩和医療を整備していくことは、医療側に留まらず、患者のセルフマネジメント力の向上など、その内面性にも大きな影響があります。

帝京大学では、地域でがんを診る総合医や臨床試験リーダーの養成コース、専門的手技実地体験コースに加え、日本にはまだ数少ない医学部緩和医療学講座を開設し、「専門的緩和医療医師養成コース」として緩和医療の専門医と学位修得を目指す大学院コースや「基本的緩和ケア医療人養成コース」（インテンシブコース）といったカリキュラムを組み、大学基盤を持って教育に当たっています。2名の大学院生が3年生となり論文に取り組んでいます。また、インテンシブコースの地域の多職種が活発に大学病院を訪れ臨床実地研修も日常の風景となりました。さらに、市民啓発活動では、例年夏の定番となった呼び込み型小学生対象のがん教育——帝京サマースクールも軌道にのり、今年は受付開始10分で50人分一杯になりました。

がんプロ2期も、後残すところ1年となりました。

子どもサポートグループのプログラム開発に向けて3大学による横断的チームが動き出しました。地域や一般市民の方々にできるかぎりの還元ができるよう大学医療人として力を尽くしていきたいと思っています。

新たな年明けに向けた抱負

日進月歩の勢いで開発される放射線科領域の高度先進医療機器は、現在の医療現場に於いては欠かすことのできない画像診断や高精度放射線治療を最大限に引き出すツールとなっています。しかし反面、臨床医は煩雑な日常診療の他に適切な画像検査法や画像読影法、放射線治療計画など多くの事を習得しなければなりません。

駒澤大学では、これらの臨床医の業務支援を行える画像読影支援者や安全な放射線治療を施すことの出来る専門職の育成、また、遠隔画像診断や画像転送システムの開発に携われる21世紀型医療ソリューションを担う人材の育成を目指します。さらに放射線治療が患者のために適切に実施されるよう、医学物理学の専門家として放射線科治療医を支援することのできる医学物理士や放射線治療品質管理士の育成を行います。

本年度と来年度は、連携4大学が推進するがん予防活動の一環として、都市部の小・中学校、高等学校を中心に、『良い生活習慣から予防できる“がん”、適切な検診により早期発見できる“がん”』をテーマとする教育活動も進めていきます。



駒澤大学
医療健康科学研究科
教授

吉川 宏起



「平成 27 年度 4 大学合同成果報告会」を開催しました。

平成27年度4大学成果報告会を、平成27年9月5日(土)に東京女子医科大学において開催しました。



東京女子医科大学の新田医学部長の開催挨拶に続き、第一部では、医学領域、看護領域のがんプロ大学院生により、PPTを使用したの成果発表と専門領域の先生方による質疑応答が行なわれました。

杏林大学内科腫瘍学分野院生の成毛医師からは、「がん化学療法による末梢神経障害に対するトラマドール塩酸塩/アセトアミノフェン配合錠の有効性に関する研究」および今後共同で取り組む「都市に生活するがん患者における充実したサバイバーシップの実現に向けた調査研究」について、帝京大学大学院医学研究科緩和医療学の久保医師からは乳癌患者におけるサルコペニアの遡及的調査研究についての発表があり、東京女子医科大学看護研究科の院生木原看護師と村田看護師からは大学院での活動の内容についての発表がありました。

第二部では、各大学の各研究科より、これまでの成果と今後の予定について報告があり、教員だけでなく院生を含めた参加者間で今後の展望について活発な意見交換が行われました。

文部科学省 がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン
「都市型がん医療連携を担う人材の実践的教育」

平成27年度 4大学合同成果報告会

開催日時：平成27年9月5日(土) 16:00-18:00

会場：東京女子医科大学 外来センター5階 大会議室

【プログラム】

- 16:00-16:05 開催の挨拶 新田 孝作(東京女子医科大学 医学部長)
- 16:05-17:05 第一部 がんプロ大学院生による成果報告
 <医学領域発表者>
 成毛 大輔(杏林大学・医学研究科・3年)
 久保 佳子(帝京大学・医学研究科・3年)
 <看護領域発表者>
 木原 円子(東京女子医科大学・看護学研究科・1年)
 村田 千穂(東京女子医科大学・看護学研究科・1年)
 参加者からの質疑応答
- 17:05-17:25 第二部 4大学によるがんプロ成果報告
 東京女子医科大学 唐澤 久美子(医学研究科)
 飯岡 由紀子(看護学研究科)
 杏林大学 古瀬 純司(医学研究科)
 中島 恵美子(保健学研究科)
 帝京大学 有賀 悦子(医学研究科)
 駒澤大学 (医療健康科学研究科)
- 17:25-17:55 大学院生および教員による意見交換(補助期間終了後も踏まえた今後について等)
- 17:55-18:00 閉会の挨拶 唐澤 久美子(放射線腫瘍学教授・講座主任)



4 大学合同カンファレンスが開催されました。

平成27年11月14日(土)、東京女子医科大学附属病院にて、
 連携4大学（東京女子医科大学・杏林大学・帝京大学・駒澤大学）の
 合同カンファレンスが開催されました。

がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン「都市型がん医療を担う人材の実践的教育」

公開カンファレンス

～ 原発不明がんの診断と治療と看護～

4大学大学院生の自主運営によるカンファレンス

日時 平成27年11月14日(土) 14:00～16:00

会場 東京女子医科大学 第1病棟3階 第4会議室

コメンテーター 高野 利実 (虎の門病院臨床腫瘍科 部長)
 【各部終了後、コメントをいただきます】

開会の挨拶 古瀬 純司 (杏林大学腫瘍内科学 教授) 14:00～

第1部：診断・治療・看護の観点からみた症例提示 14:05～

司会：村田 千穂 (女子医大)
 夏目まいか (帝京大学)

症例1：診断的観点からみた原発不明がんの1例報告 演者：酒井 貴寛 (駒澤大学)
 症例2：治療的観点からみた原発不明がんの1例報告 演者：成毛 大輔 (杏林大学)
 症例3：看護的観点からみた原発不明がんの1例報告 演者：楠岡由弥華 (女子医大)

第2部：診断・治療・看護に関する現状と課題を浮き彫りにするための教育講演 14:40～

司会：柴田 純 (駒澤大学)
 斉藤 直樹 (帝京大学)

講演1：原発不明がんの「診断」の現状と課題 演者：本多 正幸 (駒澤大学)
 講演2：原発不明がんの「治療と看護」の現状と課題 演者：森 竜久 (帝京大学)

第3部：診断・治療・看護に関する課題を焦点にしたパネルディスカッション 15:15～

司会：成毛 大輔 (杏林大学)
 夏目まいか (帝京大学)

パネリスト：守屋 駿佑 (駒澤大学)
 深澤 陽子 (帝京大学)
 木原 円子 (女子医大)

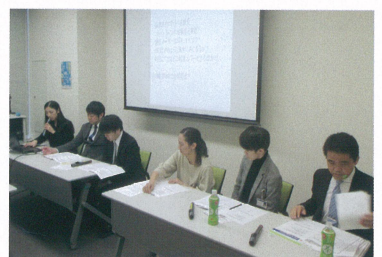
総括 本カンファレンスに関する総評 15:45～

閉会の挨拶 江口 研二 (帝京大学難治疾患支援学 特任教授) 15:55～

申込不要・参加費無料
 医師・薬剤師・看護師・放射線技師・大学院生・学生等、
 職種を問わず、どなたでもご参加いただけます
 <お問合せ先>
 東京女子医科大学がんプロ事務局
 東京都新宿区河田町8-1
 TEL : 03-3357-4889
 E-mail : top-g4_bn@twmu.ac.jp



東京女子医科大学
 杏林大学
 帝京大学
 駒澤大学



「原発不明がんの診断と治療と看護」をテーマに、司会・演者・パネリスト等の全てが大学院生の自主運営による形式で実施しました。

4大学合同で多職種の学生が集まり、医学領域のみならず、看護学や放射線学領域からも発表がなされました。

多角的アプローチから考察された各症例報告やディスカッションは、参加大学院生のみならず指導的立場にある教員からも質問が出るなど、カンファレンス参加者にとって大変有意義なものとなりました。

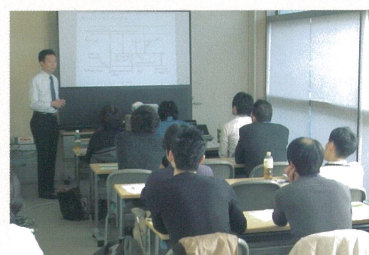
4大学合同開催にあたり、各役割の意義・重要性・困難性を実感するとともに、大学院生の研究者としての成長を感じるものでした。

『蛍光ガラス線量計による線量測定の基礎講習会』を開催しました。

2015年11月28日(土)に放射線医学総合研究所重粒子医科学センター 放射線治療品質管理室の水野秀之先生を講師に迎え、蛍光ガラス線量計による線量測定の基礎を学ぶ講習会を開催しました。

蛍光ガラス線量計はラジオフォトルミネッセンス(RPL)を利用した積算型の固形線量計で、繰り返し読取が可能で、素子間のばらつきが少なく、フェーディングはほとんどないという優れた特徴を持っています。医用原子力技術研究振興財団の治療用出力線量の第三者評価の測定事業にも使われており、最近、国際原子力機関(IAEA)も線量評価ツールとして取り入れています。

講師の水野秀之先生は蛍光ガラス線量計取り扱いの第一人者で、IAEAがガラス線量計を線量測定に取り入れた際の指導も行っています。講習会には定員一杯の12人が参加し、参加者からは「人数がちょうどよく実習形式で理解が深まった」「ブラインド照射が正解した時はガラス線量計の測定精度について感心した」「今回のような基礎講習会の重要性を改めて認識した」などの感想が寄せられました。



講習内容

- 10:00~11:00 リニアックでのガラス素子照射
- 11:00~12:00 リニアックでの電離箱線量計による測定
- 13:00~14:00 講義
- 14:00~17:00 上記で照射した素子の読み取り等

『都市に生活するがん患者における充実したサバイバーシップの実現に向けたアンケート』ご協力の御礼

都会に居住されるがん患者さんの特徴を理解し、今後のサバイバーシップの向上に向けた取り組みに行かすための杏林大学病院、東京女子医大病院、帝京大学病院において手術、放射線療法、薬物療法を予定あるいは受けたがん患者さんに対するアンケートにご協力をいただき有難うございました。杏林大学腫瘍内科古瀬教授のもとで集計を予定しており、後日結果をご報告させていただきます。

登録・問い合わせ先

 東京女子医科大学 がんプロ事務局 TEL 03-3357-4889 MAIL top-g4.bm@twmu.ac.jp	 帝京大学 TEIKYO 事務部 教務課 がんプロ担当 TEL 03-3964-1211(代表)(内線42122) MAIL ganpro@med.teikyo-u.ac.jp
 杏林大学 がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン事務局 TEL 0422-47-5512(内線3211) MAIL ganpro@ks.kyorin-u.ac.jp	 駒澤大学 KOMAZAWA 教務部研究推進課研究推進係 TEL 03-3418-9125 MAIL ken-suishin@komazawa-u.ac.jp